

# 行 動 科 学 4

【単位数:0.5単位, 授業7コマ, 予備2コマ(定期試験含まず)】

## 1 科目責任者

宮本 淳 教授(心理学)

科目担当者

平田亜紀 准教授(外国語)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(I-2-b, I-5-b, II-1-b, II-2-b)

コンピテンスである「プロフェッショナリズム」における「他者の多様な価値観を尊重できる」こと,並びに「患者と家族の心理・社会的背景を理解し,全人的に対応できる」ことを支える感性を育むことを目的とする。医療場面における人の心理や行動,医師-患者の相互作用や関係性を俯瞰的に理解した上で,患者の状況や行動の変化に応じた適切なコミュニケーションを選択する力を養う。

### (2) 学修目標

- ① 医師と患者の相互作用を客観的・俯瞰的な視点から説明できる。
- ② 認知バイアスが診断・判断・コミュニケーションに及ぼす影響を説明できる。
- ③ 医療者の心理的反応が,患者への共感的理解や関係性に影響を及ぼす場合について説明できる。
- ④ 患者の状況や行動変容段階に応じて,適切なコミュニケーションの取り方を選択できる。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
小レポート	○	30%	適宜実施し,記述内容により評価する。
定期試験	○	70%	多肢選択問題及び記述式問題
態度	○	—	態度不良の場合は,総合成績から10点を限度に減点をする。

出席: 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

定期試験に準ずる再試験を行う。評価対象の合計が60%以上で合格とする。

### (4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

小レポートについては講義でフィードバックする。

試験で正答率の低かった問題,理解が不十分と思われた問題についてはAIDLE-Kに掲載する。

これにて理解が不十分な項目について再確認を促すとともに,定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

#### 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

#### 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
こころが動く医療コミュニケーション読本	中島俊	医学書院	医療コミュニケーションについて、知見と具体例の両面から理解しやすく解説されているため
行動医学テキスト 第2版	日本行動医学会	中外医学社	医学教育コアカリキュラムに準拠し行動科学を網羅した良書

#### 6 準備学習（予習・復習）

- ① 授業に臨むにあたり、参考図書などにてAIDLE-Kにアップされた資料について簡単な知識を得ておくこと(1コマあたり約1時間)。
- ② 復習として、AIDLE-Kに掲載される授業資料を活用して、講義後に内容を再確認しておくこと(1コマあたり約1時間)。

#### 7 授業計画

##### (1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、小グループ討論などのアクティブ・ラーニングを導入する。

##### (2) 講義の内容

各回ごとに設定されたテーマに関する理論や知見を、講義形式で概説した上で、具体的なやりとりや事例を題材に、グループ討議や双方向型授業を行い、医療コミュニケーションにおいて何が起きているのかを多角的に検討する。